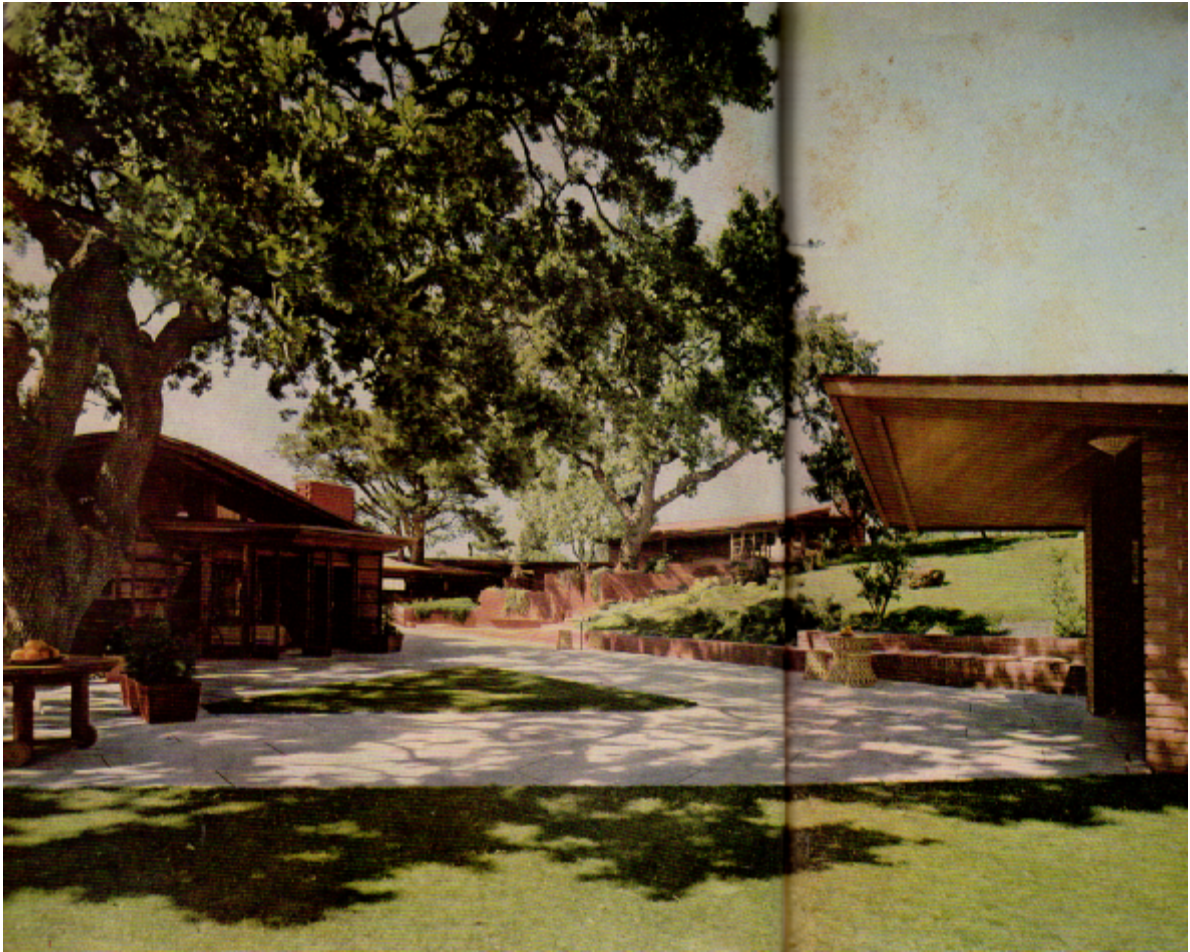
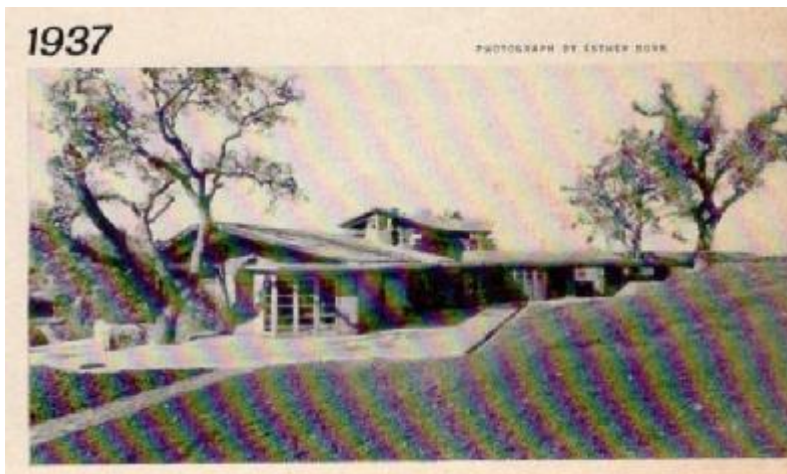


## How A Great Frank Lloyd Wright House



## 1936

丘の上の庭園を囲むこの家は、今日では大規模なおもてなしに対応できるよう広いテラスで拡張されています。滝状の噴水、ガーデンハウス（右）は、完成予定の全体デザインの最新要素です。舗装に記された六角形のユニットが、建物の流れるようなフォルムの基礎となっています。



h h-5

小さなテラスは、幼い子供たちの遊び場として最初の建設段階の一部であり、ヒルトップの庭園は、後にゲスト棟とワークショップを囲むように完成するまで、自然の状態で残されました。主要構造物の外観形状は、将来の変更を考慮して計画されていたため、ほとんど変更されていません。



## 私たちの家との恋愛 57

続き

自然の光景、音、匂い、感触を遮断する壁。従来の住宅に対するこれらの幼少期の不満は、公然と反乱を起こすことも意識的に表明されることもなかったが、数年後にフランク・ロイド・ライトの理性的な発言によって発芽するのを待っている種として存在したのである。

私たちが住宅建築に興味を持ったのには、もう一つ重要な理由がありました。私たちは二人とも牧師館の子供です。単なる住居に関する限り、私たちは文字通り「飼われている」人間でした。私たちの家族は両方とも、各教区の善良な人々が提供するのに適していると判断した宿泊施設に住んでいました。多くの場合、「見ること」に多少の欠陥があると感じられました。牧師館の各居住者は、自分の費用を負担して、自由に住居を改善することができました。このような改善は通常、塗装、紙張り、床の再仕上げなどに限定されていました。しかし、制限が必要でした。私たちは、4～5年ごとに梱包したり開梱したりする3,000冊の本を収納できる作り付けの本棚があればよかったですのですが、それはできませんでした。単純な理由は、私たちの後継者が50冊しか本を所有していない可能性があり、その本棚をどうするかという単純な理由からです。棚の残りは？そこで、私たちはお金をかけて、素敵でガラス扉が付いたおしゃれな本棚を購入しました。今日、アクセスが簡単な、愛らしい開いた本棚を見ると、私たちは装飾的な本から機能的な本へ抜け出したことを嬉しく思います。

しかし、牧師館で育つことには恩恵がありました。私たちは一連の家に住むという経験をしましたが、それぞれが異なり、それぞれがネガティブな属性とポジティブな属性を持っていました。少なくとも私たちは、家に何が望まれないのかについてかなりよく理解できるようになりました。さらに重要なことは、私たちはいつか、いつでも好きなときに好きなように変更できる家を持ちたいという情熱を持ったことです。

牧師の子供として、私たちは良い音楽を聴き、良い本を読み、真剣な議論に参加し、世界各地からのゲストをもてなし、地域活動に参加するという習慣が当然のものである知的文化的環境で育ちました。さらに、手を動かす喜びややりがいを学びました。

大学での4年間の交際と、その後の2年間の婚約中に、私たちは西部に自分の家を建てることを夢見ていました。私たちはアイデアを収めたフォルダーを保管し始めました。一度に視覚化できたのは部屋だけでした。大学卒業後のアパート暮らし(106ページをご覧ください)

### Hh-6.7



私たちは自分たちのリビングルームを感じます

私たちがこれまで見た中で最も美しいものの一つです。 レッドウッドの壁の温もり。 柔らかな入り江の照明、完璧な音響効果により、ずっと長居したくなるお部屋です。 25 年後。 私たちは今でも、24 時間でさまざまな気分が味わえることに驚かされます。

100 人でも2人でも満足できるお部屋です。 120 度の角度とさまざまなデッキのおかげで。 そして天井の高さ。 垂直に丸太を立てた暖炉は珍しく、感動的です。 炎は狭い空間で6フィートの高さまで飛び上がります。 そして囲炉裏は床面よりも下に埋め込まれています。 夜は暖炉が中心になります。 日中は外側に焦点が当てられます。 夜間は照明により上向きのコンディションも支配的になります。

6つの壁のおかげで音響は特に優れています。 ラットデッキと傾斜天井。 あらゆる種類の楽器や声など、音楽に最適です。 パーティーで、たとえ部屋に100 人がいたとしても、大声で叫ぶ必要はありません。

ライト氏は、私たちが夜に大きな火を囲んで座るのが大好きであることを知っていました。 そして彼は子供たちのことを念頭に置いて囲炉裏を設計しました。 何年もの間、私たちが囲炉裏の階段に座って日曜日の夕食を食べていました。 私たちのチョコレートはグリルで温めています。 飛び跳ねる炎で私たちの顔は熱くなっていた。

我が家にはカーテンがありません。 これは私たちにとって新しいアイデアでした。 ライト氏は私たちに新しい色合いの楽しさを紹介してくれました。 竹のオリエンタルな色合いをアレンジしたもので、広葉樹で作られ、セコイアに合わせて染色されています。 午後の暑い西日から私たちを守ってくれます。 もともとすべての寝室に置いてありました。 今のアレンジで。 私たちは家の西側にのみそれらを使用します。 文字通り、図書館の窓の向こうには何もありません。 私たちは必要性を感じません。 温かみのあるセコイアの窓は装飾として十分です。 私たちは昼も夜も庭を眺めるのが大好きです。 これはその1つです (ページをめくってください)

## 1963 年

リビングルームは床の寸法よりも視覚的に広く感じられます。 なぜなら、リビングルームで「読む」ことのできる空間を超えたスペースや、パーティションが「ここで部屋が止まる」ということがないからです。 オープンではありますが、あからさまにオープンではありません。 実際には 3 つのスペースがあり、それぞれが U 字型になっています。